

高齢者分野 高齢社会を生きる(教科書 P60～)

人生80年、私たちもいつか必ず高齢期を迎える。
高齢者になるとはどのようなことだろうか。高齢者になることで心配なこと、私たちに期待されていることはどのようなことだろうか。

これからの高齢化社会を生きる者として、高齢者も私たちも、誰もが共に充実した毎日をおくることができる社会の在り方を考えよう。

共生分野 共に生き、共に支える(教科書 P72～)

人は一人では生きられない。私たちは支え合いながら生活している。
この章では、私たちが社会で支え合っている仕組みを学んだうえで、これからの社会にどのようなシステムが必要か考えていこう。

ユニバーサル
スタジオじゃなくて
デザインよ

ひいひいじいちゃん
介護してるの
ひいばあちゃん

いつまでも
自分らしく
日々 充実

二十歳
国民年金
納めよう

介護保険
四十歳から
全加入

七十五
今日から私は
「後期高齢者」

通勤中
怪我をしても
大丈夫

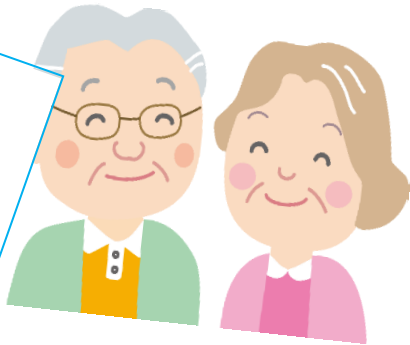
「老化」じゃない
「成熟」と予防
シニアの力

防災力
高めて安心
ハザードマップ

ひ



ろ



な



っ

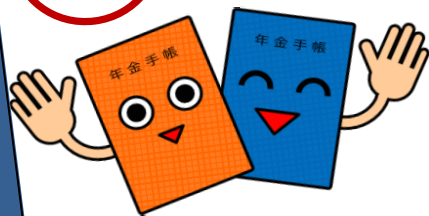


ゆ

UNIVERSAL STUDIOS JAPAN



に



い



か



ほ



い



高齢者

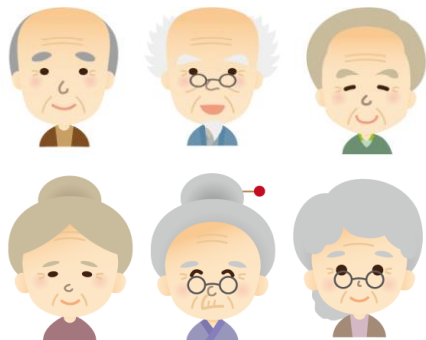
・高齢期を理解する

QOL(クオリティ オブ ライフ)

経済的、物質的な豊かさだけでなく、生活、心身、生命などあらゆる面での満足感や幸福感などの精神的な豊かさも含む概念。

その人がその人らしく、心身ともに充実した生活ができているかどうか大切です。

な



高齢者

・高齢期を理解する

高齢者人口割合とは総人口に占める65歳以上人口の割合である。

日本の高齢者人口は28.4%(2019年9月)超高齢社会である。

65～74歳 前期高齢者

75歳以上 後期高齢者と分類する。

ろ



高齢者

・老化と成熟

身体機能はピークを迎えた後 低下していく。その過程を「老化」という。

視力、聴力の低下、白髪、しわの増加、筋肉量の減少、スポーツ記録の低下などが分かりやすい。

年を取ることは「成熟する」ことでもある。より知識が増え、経験を積み、豊かな人間関係を築き、より総合的な判断ができるようになる過程である。

か

高齢者

・高齢社会を支える仕組み

介護保険は2000年から導入され、日本に住所を持つ40歳以上のものは全て加入し、月々保険料を支払います。

介護サービスを利用したい場合は、市区町村に申請する。

要介護度や家族の希望などをもとに介護支援専門員(ケアマネジャー)が介護サービス計画(ケアプラン)を立てる。



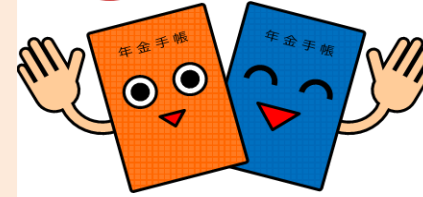
に

高齢者, 共生

・社会保障

公的年金制度

国民年金は20歳上60歳未満の全ての者が加入する公的年金制度からの給付である。保険料は定額、給付は加入期間が25年以上の人のみで、給付額は加入月数に比例する。



ひ

高齢者

・これからの高齢社会

「老老介護」

家族の中で高齢者が高齢者を介護すること。高齢者夫婦の間や、高齢に達した子がさらに高齢の親を介護する場合などがある。

介護離職

介護疲れ

高齢者虐待

などの問題が増えている。



ほ



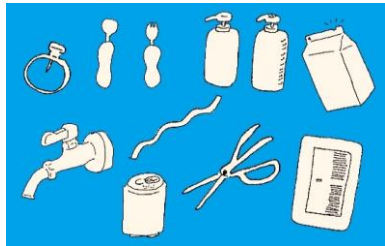
共生

地域の防災力を高めよう

ハザードマップとは、自然災害が発生した場合の被害を予測して、被災想定地域や被害の範囲、避難場所や避難経路などを地図上に表示したものです。自然災害による被害を軽減したり、防災対策に活用したりするために、各地域で、災害ごとに作成されています。

自然災害から自分や家族、地域の人々の生命や健康を守り、できるだけ被害を少なくするためにできることを、「自助」「共助」「公助」の面から考えよう。

ゆ



共生

共生社会を目指して

年齢や障がいなどの特性にかかわらず誰もが普通（ノーマル）に暮らせる共生社会を目指すことが、「ノーマライゼーション」の理念である。

◆「ユニバーサルデザイン」とは

高齢者や障がいのある人だけでなく、全ての人が使いやすいことを目指して設計されたもの。

つ



共生

・社会保障

憲法第25条(生存権)
「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」
そのための総合的な制度を社会保障という。

社会保障は社会保険と社会福祉があり、社会保険の中に労働災害や通勤災害を補償する「労働者災害補償保険」がある。